

## 講演

# 福島放射能汚染の実態 — 原発事故は何をもたらすか —

(資料代500円)

## 講師 木村真三氏

旧広見町出身 放射線衛生学研究者  
獨協医科大学准教授

10月28日(日)午後2時より

愛媛県美術館・講堂

松山市堀之内 (180人収容)

089(932)0010

福島第一原発事故の直後、福島県内の放射能測定を行い、汚染の実態を「放射能汚染地図」としてまとめ、情報不足に悩む現地住民に提供し、大きな反響を呼んだ。チェルノブイリ原発事故の健康への影響を調査するためにウクライナへ何年も通っており、日本とウクライナの架け橋を自認する。

大学の業務の傍ら、福島では二本松市をはじめ県内自治体で、市民の内部被爆に関するアドバイザーとして、また地方の講演会に引っ張りだこの、目の回るような忙しい日々を送っている。



### 講演会終了後引き続き(4時30分(予定)より)

「えひめ地域再生戦略研究会」総会を行います

1. 会則改正及び役員変更

2. 事業計画 えひめ地域再生戦略研究会及び  
えひめ県民大学の運営

◎総会后、懇親会を行います(伊予鉄会館)

<問合せ:研究会事務局、井上(090-8692-5770)まで>

#### ■きむら・しんぞう

1967年 7月12日、愛媛県広見(現・鬼北)町に生まれる。母方の実家は宇和島の豪商で、住み込みのお手伝いがあるような裕福な家だったが、どこかそういう生活に馴染めなかった。小学3年のとき、いじめられていたクラスの女の子をかばったら、無視された。リベンジを心ひそかに誓い、身体の鍛錬を始める。中学入学時、「乱暴なことをして」威圧感だけで相手を黙らせた。

83年 素行不良で進学校に進めず、愛媛県立北宇和高校に入学。高校時代、一日に腕立て伏せ、腹筋、背筋それぞれ500回、ヒンズースクワット1500回をこなし、徹底的に身体をつくる。新日本プロレスに入り、アントニオ猪木の付き人になることを考えた。

87年 1年間の浪人後、東京理科大学山口短期大学(現・山口東京理科大学)に進学。

89年 4月、九州工業大学工学部2部の3年に編入。専攻は金属材料。物理と化学を学ぶ。学内で技術補佐の仕事を見つけ、昼は物理現象を視覚化するシミュレーションプログラムを作る。

92年 東京理科大山口短大の助手に。

93年 石川県にある北陸先端科学技術大学院大学に進学。体内の薬物伝達システムを研究。

95年 北海道大学大学院地球環境科学研究科に進む。パーキンソン病のメカニズム研究で博士号取得。

99年 千葉市にある放射線医学総合研究所へ就職。9月30日、茨城県東海村のJCOで臨界事故発生。初動が遅れて調査不十分で終わる。

2000年 チェルノブイリ原発事故の調査のため、初めてウクライナに行く。

04年 3月、放医研満期退職。

05年 友人の会社で塗装工として働く。

07年 厚生労働省所管の労働安全衛生総合研究所に入る。

11年 3月12日、東京電力福島第一原発1号機が爆発。同15日からNHKの取材チームとともに福島県内の汚染調査をする。労働安全衛生総合研究所を退職。8月、獨協医科大学准教授に就任。12月27日、福島県二本松市の新築マンションから高放射線量が検出。このマンションの建造に原発事故によって放射能に汚染された砕石が使われていたことを突きとめた。

12年 4月、NPO法人「放射線衛生学研究所」を設立、理事長に。